

英語科

新学習指導要領の「読むこと」に関する教材についての研究

村上直子

1. はじめに

本稿は、新学習指導要領で改訂された内容にあわせた教材や授業展開についての研究である。

外国語科の、新学習指導要領の改訂でのポイントは、以下が挙げられる。

- ①年間授業時数が各学年 105 時間から 140 時間へ増加された。
- ②指導すべき語数が3年間で900語程度から1200語程度へ増加された。
- ③文法事項等の指導内容は概ね従来のみである。
- ④言語活動の充実

という4つがあげられる。この④の言語活動の充実という点で、指導事項が現行指導要領の各4項目から1項目増えた5項目となった。「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の各領域ごとに追加、または再編集されているのであるが、ここでは「読むこと」に焦点を当ててみることにする。

2. 読むことに関して

「読むこと」に関して現行学習指導要領と新学習指導要領を見比べてみる。

- ・現行学習指導要領と新学習指導要領どちらにもあるもの（「読むこと」について）¹⁾

①目標

英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。

②内容

エ 読むことの言語活動

(ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。

(イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。

(ウ) 物語の説明文などのあらすじや大切な部分を読み取ること。

(エ) 伝言や手紙などから書き手の意向を理解し、適切に応じること。

さらに、新学習指導要領では「読むことの言語活動」に次の内容が1つ付け加えられた。

- ・新学習指導要領（「読むこと」について）

(オ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。

この新たに付け加えられた言語活動の指導事項(オ)の指導ポイントについてくわしく見ていきたい。

3. 指導のポイント

指導事項(オ)の言語活動を行っていくには(ア)～(エ)の言語活動の充実も必要になってくる。

基礎的な読解力を育成しながら、「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる」ようにするためには何を留意すべきか、以下にポイントを挙げてみる。

(1) 内容を適切に理解させるための工夫

書かれている内容に対して、指導者がそれに対してどのような発問をするかによって、生徒たちは読み取ろうとするポイントを押さえていくので

はないであろうか。具体例を挙げて考えてみたい。

(1 学年)

- (例) A: B, do you play basketball?
 B: Yes, I do. Do you like it, too?
 A: No. I don't like it. I play table tennis. Do you like it, too?
 B: Yes, I do. How about you, C?
 C: ()

これを生徒に読ませたあと、「この会話は何人で行われていますか。」と問えば(ア)を意識した発問であるし、「Cさんになったつもりで()に英文を入れなさい。」と問えば、(エ)を意識した発問となる。では、(オ)に着目すればどのような問いになるであろうか。一例として、

「ここに出てくるスポーツに対して、あなたは好きですか、嫌いですか。それぞれ答えなさい。」

とすれば、生徒は自分の意見(好き、嫌い)を持つために、まずどんなスポーツが出てくるかを読み取ることになり、さらにどういえばよいのかを考える。好きならば I like ~. や I play ~ every Saturday., 嫌いならば I don't like ~. や It's not interesting. などその時の学習段階に応じて既習事項の中から使えればよい。上の例は1学年の前半で学習する事項であるが、2学年になれば I think basketball is very exciting. や、I don't like table tennis because ~ などの表現を使える。指導者は、そう言う場合に使いそうな表現を繰り返し与えたり、思い起こさせたりすることが必要となってくる。

「それぞれ答えなさい」とあるが、「ペアになってパートナーに伝えなさい」、という「話すこと」や、「英文を書きなさい」、という「書く」活動に結びつけてもよい。そうした活動につなげることも大切である。

(2) 意見を持ちやすい、賛否や理由を言いやすい雰囲気づくり

英語の授業だけではなかなか難しいが、自分の意見を伝え、それが認めあえる学習集団作りも、新指導事項(オ)に関して欠かせない要素である。どん

な意見をもったとしても、それを受け入れようとする雰囲気づくりや、伝えたいことを英語でうまく言えなかったとしても、その大意を理解しようとする「受け手の姿勢作り」に力を入れたい。誰かが間違えたことを言っても、それに対する指摘は必要であるが、発言することに対しては肯定的な態度や、聞き手に対しても嘲笑など絶対してはならないという雰囲気を作る。聞く時は、静かにさえなっていればよいのではなくて、何を言っているのかな、何が言いたいのかな、という気持ちを視線やうなずき、笑顔といった形で表すことのできる態度を持つための指導が必要である。各学校・地域での規模や実態はそれぞれ異なるが、まずは教師自身がそういう雰囲気を作ろうとすることが大切である。筆者自身もよい具体例がなかなか見つからず、取り組んでも上手くいかないことはあるが、何を発言しても、所属集団は受け止めてくれると思う人が増えれば増えるほど、学習に対しても肯定的な態度を示し、円滑的なコミュニケーションがなされていくはずである。意見に対して感想を述べること、賛否や理由を示すことの仕掛けも必要であるが、同時に、肯定的な受け止めをする学習集団やそのための学習規律を確立することが大切である。そうすれば、生徒たちも安心して発信でき、積極的に取り組もうとするであろう。



図1 ペア活動の様子

4. 具体的な指導例

具体的な指導例について、その一例を挙げる。

(1) 対象

中学校2年生

(2) 題材

Unit4 Homestay in the United States

(東京書籍)

(3) 教材について

本単元では、新出事項として、have to~, will, mustの助動詞を学習する。文構造としては、助動詞+動詞の原形という形になるが、義務、意思、禁止、未来などそれぞれの助動詞の持つ意味は異なってくる。これらを学習することによって、書き手や話し手の気持ちなどが表れたり、思いを伝えたりする表現ができる。また、本単元では、主人公がアメリカでのホームステイを通して、生活習慣の違いや文化の差を知る場面展開がなされ、さらに戸惑いやトラブルなどを伝えて、アドバイスを受けるといったような表現を知るストーリーになっている。

本単元を通して、「話の内容や書き手の伝えようとすることを読みとること」と、そして「読んだことに対して意見や感想を書くこと」ができるようにしたい。そのためには、技能的には読むことと、書くことを重点に授業を展開していき、読んだことを書くことへつなげる学習内容を考えたい。生徒観にもあるように、書くことに理解の差があるので、助動詞のある文の構造やその意味、そして感想や理由を示す時に用いられる表現の定着などをしっかりとしていきたい。

(4) 題材の目標

- ・ have to, don't have to の表現や助動詞 will, must を用いた文の構造を理解する。
- ・ 話の内容や書き手の伝えようとしていることを読みとる。
- ・ 読んだことに対して、自分の意見や感想を書く。

(5) 題材の評価基準

- ア. コミュニケーションへの関心・意欲・態度
- ・ わからないことがあっても、最後まで活動

を続けようとしている。

- ・ 積極的に自分の意見や感想を書こうとしている。

イ. 表現の能力

- ・ 助動詞のある文を使って、伝えようとしている。

ウ. 理解の能力

- ・ まとまった文の内容や、書かれていることの趣旨を理解している。
- ・ 話の内容を理解して、正しい発音や区切りをつけて音読できる。

エ. 言語や文化についての知識・理解

- ・ 助動詞のある文の、肯定文、否定文、疑問文の構造を理解して書ける。
- ・ 意見や感想を、読み手にわかるような文構造や表現など正しく使い、書ける。

(6) 授業構成 (全7時間)

第1次 ・新出単語と語句 (phrases) の学習
 ・ have to, don't have to の文構造について学習

第2次 ・助動詞 will の文構造について学習

第3次 ・教科書本文の音読と復習
 ・ 本文の内容から、読み取れる状況や内容をまとめる

第4次 ・助動詞 must の文構造の理解

第5次 ・教科書本文の音読
 ・ must, mustn't を用いて本文の内容に対してアドバイスを書く

第6次 ・書き手の意向を読んで相手について深く知る。

- ・ 助動詞を用いながら自分の意見やアドバイスを書く

第7次 ・自分の意見をグループで共有する
 ・ 他者の内容を読んだ感想を書く

(7) 授業の展開例

以下は、第6次の授業展開例である。

①本時の目標

- ・ 書き手の意見や悩みが正しく把握できる
- ・ 書かれている内容を整理し、自分の意見や

その理由を示す

②本時の観点別評価規準

- ・書かれていることの内容や趣旨を理解している (ウ)
- ・意見や感想を、読み手にわかるような文構造や表現など正しく使い、書ける。(エ)

③学習の展開

学習活動	指導上の留意事項
○あいさつ	
○Warming Up とし てのペア活動	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に声に出させる ・ペアで行う簡単な活動を通して、コミュニケーションをとりやすい雰囲気を作る
○ワークシートに 書かれてあるメ ッセージを読む (図 1, 図 2 参 照)	<ul style="list-style-type: none"> ・黙読させ、ワークシートを読んで、内容が把握できるような項目に書きこんでいく ・発表を通して、全体で内容を確認させる
○メッセージの内 容を整理する (図 2, 3 参照)	<ul style="list-style-type: none"> ・メッセージをペアで確認しながら、書いた人物についての情報を増やす
○メッセージの内 容から、その人物 や状況などを分 析する (図 4 参 照)	<ul style="list-style-type: none"> ・整理した情報を元に、相手の事を考えたアドバイスを作る
○感想やアドバイ スなどをまとめ、 英語で表現でき るようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を参考にしたり、他者の英語表現を参考にしたりして、英語でアドバイスを書けるようにする。
○英文で表現する	
○次時について	

What's Your Idea?

～何かいいアドバイスはない？～

A：内容理解

(1) この手紙を書いた人はどんな人でしょうか。情報をすべて書いてください。

()

(2) この人は、ホームステイをしています。ホストファミリーの家族構成を答えなさい。

()

(3) ホストファミリーがしてくれることで、困っていることは何ですか。

()

(4) いま、相談していることはどんなことでしょうか。

()

Hello, Japanese friends,

I'm Paulo. I'm from California and living in Tokyo now. I stay in a Japanese family, Mr. Suzuki, Mrs. Suzuki, their two sons. Everyone in my host family is nice to me and very kind. They always take care of me and talk to me. On Saturdays and Sundays, they take me to some interesting places for sightseeing. It's wonderful and nice but I have a problem. On holidays, I don't want to go outside. I have a lot of homework and I want to surf the Internet. I get many e-mail by my friends in California, so I want to send e-mails for them. Do I have to go outside with them? Can I say, "Sorry I don't want?" What do you think? Please give me your good answer!

Paulo

図 2 ワークシート A

What's Your Suggestion?

～何かいいアドバイスはない？～

A：内容理解

- (1) この手紙を書いた人はどんな人でしょうか。
情報をすべて書いてください。
()
- (2) この人は、ホームステイをしています。そのホ
ストファミリーの家族構成は？
()
- (3) いま、相談していることはどんなことであ
るか。
()

Hello, Japanese friends,

I'm James. I'm from California and living in
Mihara now. I'm staying in a Japanese
family, Mr. Suzuki, Mrs. Suzuki, their two sons.
I go to a junior high school in Mihara. I enjoy
my school life and I sometimes find some
different things from Japan and America, but
they're interesting. Today, I want to tell you
an important thing.....I like a girl, Rie, in our
class. She's a member of the soft tennis
team and she's very cute. I want to have a
date with her! But I don't know any good
places and Japanese girls favorites. What do
Japanese girls like? Where do they want to
go? I will invite her for a date this Saturday.
Please tell me your good advice.

James

図3 ワークシートB

図2, 図3にある, 内容理解のための質問は, よく見られる内容である。書かれている英文の文構造や語彙の理解があれば, 質問Aにある問いは答える

ことができる。このような場合は, 「問いに対する答えを抜き出して日本語にする作業」とも言える。このようなタイプの内容理解はよく行なわれてきた。しかし, 読みとった情報から, 以下のようなことを指導者が発問し, 考えさせてはどうだろうか。

・図2の場合

「カリフォルニアと東京の違うところはどんなところだろうか」

「some interesting places とあるが, どんなところを観光するのだろうか」

「Paulo はどんな性格なのだろうか」

このような発問をして, それぞれ考えさせる。その場合, 「～だから」という理由もつけ加えさせる。カリフォルニアと違って東京は人が多い, 自然が少ないと考えれば, 書き手 Paulo はホームシックにかかっているのかもしれない, となるし, some interesting place は, 浅草や東京タワーなど日本の名所を観光しているだろうから, そういったところに毎週外出するなら, 疲れるだろうな, と想像できるであろう。「行きたくない」となかなか言えないのであれば, 相手に気を遣う性格なのだろうか, など, 書き手に対しての理解が深まるのである。そのあとで, 相手にアドバイスをするという活動につなげさせたい。相手に「アドバイスをする」ということはどんなことであるか, 相手のことを思う言葉とはどんなものであるか, ということに対しても考えさせて表現させたいと考えている。そしてその後で, どうやって表現したらよいかを既習事項や語句など提示し, 話す, 書くなどのアウトプット活動へつなげていくと系統的な指導ができるであろう。

ワークシートBも異なる内容であるが, 内容理解の手法などはほぼ同じにしている。文面から読みとれること, そこから相手の背景や状況, おかれている環境や心情までじっくり考えさせたあと「書くこと」へつなげる活動へとつなげたい。アドバイスの内容も異なるが, 同じような表現方法(特に新出事項の助動詞をつかったもの)を用いることができるはずである。いきなり英文を書く

ことが困難な場合は、もっと細かなステップで表現に慣れさせることが必要であろう。

5. おわりに

「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。」という新しく付け加えられた指導事項では、「読んだ後にどうするのか」ということを事前にしっかり提示し、それをふまえた上での内容理解をさせることが必要である。さらに、書き手の意見に対して読み手である自分の意見を持つ、批判する、判断するという主体的な読み方をさせることが求められるであろう。そして、感想や賛否やその理由などを示すことについては、既習事項を用いたり、語句などを示したりして、表現できる幅を広げさせたい。そういった「話すこと」や「書くこと」につなげる活動にもリンクさせていくことが、系統的な指導につながっていく。生徒たちの表現する力をしっかりつけていくためには、表現したい内容をしっかりと考えさせること、そしてそれを表現するために必要な学習事項を身に付けさせることが大切である。それには、話の内容や書き手の意見などを適切に理解するということが大前提である。

〈引用および参考文献〉

- 1) 文部科学省：「中学校学習指導要領解説 外国語編」，pp.15-16，2008，開隆堂.